

特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品

DJ-PC27

詳細取扱説明書



本書は無線機販売商社・販売店、無線機を設定管理される方に向けて編集したものです。設定済みの無線機を一般ユーザーが設定変更すると通信できなくなります。操作する前に管理者にご相談ください。

注意

Li-ionバッテリーパック(EBP-70)をお使いの際は、減電池表示を正しく機能させるため、セットモードの「電池選択(bt)」(29ページ)をLi-ion(Li)に設定してください。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本機は免許、資格が不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。

本機の性能を十分に発揮させるために、付属取扱説明書と合わせて最後までお読みいただくようお願いいたします。

安全上のご注意

◎ 本機を正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。使用者や周囲の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、次の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△危険	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	この表示は「人が傷害を負う、または物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

- * 重傷とは、けが、やけど、感電、骨折などの傷害で入院や長期通院をしたり、後遺症が残ったりするものを指します。
- * 傷害とは、治療に入院や長期通院の必要がないやけど、けが、感電などを指します。
- * 物的損害とは、家屋、財産、家畜、ペットなどにかかわる拡大損害を指します。

免責事項について

- 天災や人災、弊社の責任以外の火災、本機の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とはことなる使用方法で本機を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた純粹経済損害、また人命救助などを目的とした通信に本機を使用し通信の途絶、故障や誤動作、電池の消耗などにより人命に関わる事態が生じても弊社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 弊社が関与していない接続機器との組み合わせによる誤動作や、使用中の故障・電波環境などから通信や受信できなかったことで発生した逸失利益に対する責はご容赦ください。

■共通（本機/別売 充電器/別売バッテリー/別売 AC アダプター）

△危険

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
 - 指定以外の機器を充電しないでください。
 - 指定以外の充電器を使用しないでください。
 - 指定以外の AC アダプターを接続しないでください。
- ◎ 引火性ガスが発生する場所では電源を入れしないでください。
爆発、火災、感電、故障の原因になります。本機は防爆仕様ではありません。
- ◎ 直射日光が当たる場所、空調機や火の近くなど、温度が高くなる場所には絶対に置かないでください。
破裂、火災、故障の原因になります。真冬でも閉め切った車内や窓際は日光が当たると本機の表面は電池の破裂につながる温度まで上昇します。
エアコン暖房程度の温風でも連続して当たっていると高温になります。
- ◎ 雷が鳴り出したら、屋外での使用時は直ちに屋内、車内など安全な場所に避難、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。
感電、火災、故障の原因となります。

△警告

- ◎ 分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 万一、発煙、異臭、異音、バッテリーのふくらみなどの異常がある場合は、使用しないでください。
継続してお使いになると、火災、感電、故障の原因になります。電池を取り外し、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜き煙が出なくなったことを確認してから、お買い上げの販売店、または、弊社サービスセンターにご連絡ください。
- ◎ 小さいお子様の手が届かない場所で使用、保管してください。
感電やけがの原因になります。

- ◎ 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電・やけど・けがの原因になります。

△注意

- ◎ ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）を絶対に使用しないでください。柔らかい綺麗な布で乾拭きをしてください。ケースが損傷したり、文字が変質したり、塗装がはがれたりする恐れがあります。また、機器内部に洗剤などが浸透し故障の原因になることがあります。

■本機

△警告

- ◎ 医療や介護関連、または空港、鉄道、港湾、放送局、中継局など電波を使用する施設での使用については各施設管理者に事前に問い合わせ、承認を得てからご使用ください。電波障害による機器の誤動作が重大な事故や妨害の原因となります。
- ◎ 運転中に本機を手を持って操作しないでください。このような行為は運転中の携帯電話使用と同様に罰せられます。
- ◎ 本機を振り回したり、投げたりしないでください。部品が外れて人や壁などに当たり、けがや故障、破損の原因になります。
- ◎ 大きな音量でイヤホンやイヤホンマイクなどを使用しないでください。大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。本機は従来品より大きな音がでます。

△注意

- ◎ 付属品や弊社指定のオプション品以外を接続しないでください。故障や感電などの事故の原因になります。
- ◎ 指定以外の温度範囲で使用しないでください。記載の温度範囲以外でのご使用は故障、動作不良、発熱発火の原因になります。
- ◎ 電池、充電器の端子に半田付けをしたり、端子間を金属類で接続したりしないでください。火災、発熱、感電、けが、故障の原因となります。

■別売 充電器

△警告

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
 - 充電器に水を入れたり、濡らしたりしないでください。また水に濡れたときは使用しないでください。
 - 濡れた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
 - 充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
 - 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

△注意

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、液漏れ、発熱、感電、故障の原因になります。
 - 10℃～+40℃以外の環境で充電しないでください。
 - 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
 - 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。
 - 指定以外の電圧で使用しないでください。
 - 充電するときは無線機の電源を切ってください。

■別売 ACアダプター

△警告

- ◎ 濡れた手で絶対にACアダプターに触れないでください。感電の原因になります。
- ◎ アダプターや接続ケーブルに傷がある場合や、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。火災、感電、故障、破損の原因となります。

◎ 次の事項を守らないと、火災、感電、故障の原因となります。

- コードの上に重いものを載せないでください。
- ホコリがたまる場所にあるコンセントに接続しないでください。(トラッキングと呼ばれる現象で発火することがあり、大変危険です。)
- アダプターを抜き差しするときは、電源コード(以下コード)を引っ張らないでください。
- コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 水などの濡れやすい場所では使用しないでください。
- アダプターをタコ足配線して使用しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。

■ バッテリー使用上のご注意

次の注意事項を守らないと、発火や発煙の原因となります。

- 季節、温度に関わらずバッテリーを車内や窓際など直射日光が当たる場所やヒーター類の近くなど高温となる場所には絶対に放置しないでください。
- 充電するときは無線機の電源を切ってください。入れたまま充電すると正しく満充電になったことが検知できません。
- 指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、直ちに充電を中止してください。
- バッテリーは正しく使っても経年劣化する消耗品です。本機の性能を十分に活用するためにも、3年を目安、長くても5年以内に交換してください。いつもより発熱している、膨れたなど異常があると思われたときはすぐにバッテリーを交換してください。
- 固い床に落としたり、壁にぶつけたりなどでバッテリーに強い衝撃を与えたときは新品に交換してください。電池内部に小さな傷ができると、それが発火や発煙の原因になります。

注意

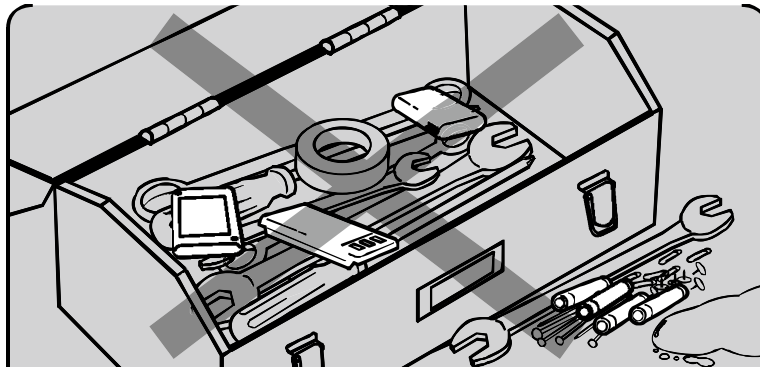
- バッテリーは出荷時には十分に充電されておりません。お買い上げ後に満充電してからご使用ください。
- 充電は+10℃～+40℃の温度範囲内で行ってください。
- バッテリーの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性もあり大変危険です。
- バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。
- 満充電やそれに近い状態のバッテリーを繰り返し充電していると過充電となり、使用時間が短くなります。減電池表示が出るまで使ってから充電してください。
- バッテリーの保存は、-10℃～+45℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの液漏れや、金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
- リチウム系のバッテリーの長期保管には50%程度の充電状態を保つことが推奨されています。長期保管するときもときどき減電池表示をチェック、必要があれば補充して、短時間でも本機を使用するのが無線機・バッテリー両方に最良の保管方法です。

■電池類の持ち運びについて

乾電池やバッテリーを持ち運ぶときは、以下のことにご注意ください。

端子をショートさせると大電流が流れて火災、やけどの原因になります。

1.5Vの単三形乾電池ですら数分程度で、約90℃以上の温度になるので十分な注意が必要です。



- ◎ 金属製のもの（ネックレス、ブレスレット、キー…）が入ったバッグや金属製のケース（工具箱…）などに直接入れないでください。
- ◎ 雨や雪、波しぶきなどが直接かかるような状態では持ち運ばないでください。真水や塩水は電気を通します。
- ◎ 電池を持ち運んだり保管する場合は、必ず1個ずつビニール袋にいれたり布で包むなどしてショートしないようにしてください。
- ◎ 長期間使用しない場合は電池を無線機から外して、直射日光が当たらない、できるだけ湿度の低い冷暗所で同様の配慮をした上で保管してください。補充電については別途充電器の項目でご説明しています。
- ◎ 廃棄のため電池類を保管する場合は必ず端子部分にセロハンテープを貼るなどしてショートしないようにしてください。

■電磁ノイズ

インバーター回路を内蔵している電子機器やハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に動作できないことがあります。

例：● LED 照明機器 ● 電磁調理器 ● 給湯器 ● 自動車の電子機器 ● 太陽光発電装置 など

■アフターサービス

◎ 保証と保証書

修理やメンテナンスなど、保証の詳細は販売店とお客様の間の契約が優先されますのでご購入時によくご確認ください。弊社の製品保証の内容は弊社発行の保証書に記載されています。保証書には購入店名、購入日の記入と、記載の製造番号に間違いがないかをお確かめの上、本書と一緒に大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類を一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

◎ 保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。アフターサービスや製品に関するよくあるご質問は「アルインコ 電子 FAQ」をキーワードにネット検索してください。ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

◎ 製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし、不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後5年です

◎ 注意事項

- 改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされたりした製品は、技術基準適合から外れるため、修理をお断りします。また、内部の部品は販売しておりません。
- 修理見積や保険用の証明書の発行は、一部有償です。
- 本機には明確に定められた製品寿命はありません。
- 樹脂成型時に細いラインが入ることがありますが、異常ではありません。
- 印字について美観上の問題が無い範囲でわずかなムラがあります。
- 使用条件によって端子部が変色することがありますが、異常ではありません。
- 静電気が溜まりやすい場所や服装で別売のイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。ドアノブなどに触れて感じることもあるショックと同じで、漏電のような異常ではありません。
- 付属品や弊社指定のオプション品以外のアクセサリを接続して使用すると故障や動作不良の原因になることがあります。他社製品をお使いになっての不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外です。他社製品を本機に使うための改造サービスは有償、無償にかかわらず行っておりません。
- 本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。事前の個別契約が無い限り、誤動作、不具合や損害が生じてても一切の責任は負いかねます。
- 乾電池は推奨使用期限内にお使いください。古い電池は性能の低下、内部素材の劣化による液漏れの原因になります。使用期限は「月－2桁」または「月－西暦年号」の順で、本体またはパッケージに表示されています。例：01－33、01－2033 は 2033 年 1 月を表します。

■ 廃棄について

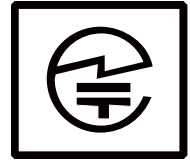
- 法人の場合は本体、電池（バッテリー）とも事業系ごみです。本体は電池を外し、銘板ラベル類をはがした後、水につけるなどして故障させてから産業廃棄物として指定業者にお出しく下さい。
- 個人でお使いの場合も同様に処理してから、小型家電と同様に廃棄手続きしてください。乾電池は地域指定のリサイクルにお出しく下さい。バッテリーは廃棄にお困りでしたらサービスセンターにご相談ください。

電池類を廃棄するまでまとめて保管するときは端子にセロハンテープ等を貼って絶縁してください。

電池の端子どうしが触れ合っていると発熱・発火の危険があります。

■電波法

- ◎ 本機は電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品で、右図の「技適マーク」が印字されています。分解しないでください。改造して使うと罰せられます。



- ◎ 電波行政と仕様の違いから、使用できるのは日本国内に限られています。通関時にトラブルが起きたり、現地の電波管理法令に違反して処罰されたりするリスクがあるので、海外に持ち出すのはおやめください。
- ◎ 本機、モジュールに貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
- 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法機器とみなされることがあります。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきた場合はお買い上げいただいた販売店が弊社サービスセンターにご相談ください。
 - ラベル類が意図的に手を加えられていると判断した場合、修理をお断りすることがあります。不法無線局開設の補助に該当するためご了承ください。
- ◎ 他人の通信を妨害したり、通話の内容を無断で漏らしたり、勝手に利用したりすることは電波法で禁じられていて、違反すると罰せられます。
- ◎ 心臓ペースメーカーや補聴器を使用している人の近くで、本機を使用しないでください。電波によって機器が誤作動すると大変危険です。

■外郭保護性能

本機は設計段階で外郭保護等級 IP54 規格の防塵防水試験に合格しており、適合するアクセサリー、電池カバーを正しく装着するなど指定の条件を満たしていれば、濡れた手で触ったり、埃っぽい環境でお使いになっても故障しにくい構造です。ただし試験には条件があり、完全な保護を保証するものではありません。金属性、油性、酸や塩分・化学物質を含むなど、特殊な粉塵や液体、気体が製品に使われている素材や部品に付着すると腐食、劣化や故障の原因になり、保証の対象外となります。保護に使われているカバーやシールドの素材は経年劣化のため変質し、保護性能が低下します。弊社の外郭保護性能保証期間は製品本体の保証期間と同じです。外郭保護性能にかかわらず汚れたり濡れたりしたときは、すぐに汚れを落としてから乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけていただくと、長く正常な状態でお使いいただけます。特に電池交換の際は埃や水分が内部に入らないように充分ご注意ください。ソフトケースを使うと水分や塵、衝撃から本体を保護できるので故障しにくくなります。

IP54

防塵：既定量のベビーパウダー状の粉塵を浮遊させた試験器内に規定時間放置して、異物が入っても所定の動作と安全性が保てること。

防水：真水を既定の条件で全方向からじょうろ状の器具で散水して内部に水が入らないか、入っても当面実用上問題無く使えること。

■秘話機能について

本機の秘話機能は同じ方式の秘話機能を持ったトランシーバーでは通話が聞き取れるため、盗聴や傍受を防ぐ機能ではありません。

■別売のイヤホンマイクやスピーカーマイクについて

本製品はセットモードで設定することでイヤホンを高音量で鳴らすことができますが、一部のアクセサリーはこの高音量に対応しません。標準設定のままお使いください。

高音量設定に対応しない別売オプションマイク(2026年6月現在)

- ・ヘッドセット EME-46A (耐久入力定格 300mW)
- ・ヘルメット用ヘッドセット EME-53A (同 300mW)
- ・スピーカーマイク EMS-59 (同 500mW)

機能と特長

- 単信交互通話や中継通話の全 47ch に対応した特定小電力トランシーバーです。
- 業務でも、レジャーでも、目的を選ばず使えます。
- 防塵防水 IP54 のトランシーバーです。
- ACSH、コンパクター、VOX、秘話、エンドピー、PTT ホールド、送信禁止、イヤホン断線検知、コールバック(自声モニター)、接客モードなど定番の機能をもれなく搭載しました。

ご使用前の注意

■ ご使用環境

高温、多湿、直射日光が当たり、短時間でも高温になるところは避けてご使用ください。

■ 分解しないで

特定小電力無線機の改造や仕様の変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。修理は販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。

■ 使用禁止場所

特定小電力トランシーバーは微弱電波ですが、空港、公共交通機関、医療・高齢者施設など無線機器の使用が制限される場所では事前に施設管理者の許可を得てください。航空機内など使用禁止場所では指示に従ってください。本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。

This product is intended for use only in Japan due to the difference of radio administration law.

■ 通信距離の目安（10mW 送信時）

- 河川敷のような障害物の無い平地：500m～1km 程度
- 見通しの利く道路上、郊外の住宅地など障害物の少ない場所：500m 程度
- 市街地など障害物の多い屋外：200m 程度

※送信出力 Lo(1mW)での通信距離は半分以下まで短くなる場合があります。

注意

- 建物内の縦階層間の通信はフロアが障害物になるため、直進では十数メートルの近距離であっても通信できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩行などの移動の影響により、通信距離が半分程度まで短くなる場合があります。
- トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝播の特性により近距離でも通信できないことがあります。

目次

安全上のご注意.....	2
機能と特長	8
ご使用前の注意.....	9
1. 特定小電力無線の通信制限について	11
2. 付属品	11
3. 電池の入れ方.....	12
4. 別売 バッテリー・充電器	13
5. 各部の名前とはたらき	15
6. 基本操作.....	17
7. 交互通話 ※中継通話の子機として使うときは次ページの「8：中継通話」からお読みください。.....	17
8. 中継通話 ※中継器を使わないときはこの機能は使用しません。.....	18
9. コールトーン機能.....	18
10. グループトーク(グループ)機能	19
11. キーロック機能.....	19
12. 減電池表示.....	19
13. ACSH (アクシュ) /チャンネルとグループ番号の自動設定.....	20
14. エアクローン	21
15. デュアルオペレーション.....	22
16. 中継リモコン	23
17. モニター機能.....	24
18. イヤホン断線検知機能	24
19. 最適チャンネルサーチ	25
20. リセット.....	25
21. セットモード一覧表	26
22. セットモード基本操作	29
23. セットモード項目	29
24. 故障とお考えになる前に.....	37
25. オプション一覧.....	39
26. 生産終了品に対する保守期限.....	40
27. 定格	40

1. 特定小電力無線の通信制限について

特定小電力(特小)トランシーバー共通の規格です。

■3分制限(3分以上は連続で送信できません)

10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止して、別のユーザーが送信しなければ2秒後に送信を再開できます。これはチャンネルを独占させないための機能です。

注意

PTTホールド設定時や別売マイクのPTTロックをしていると、送信再開可能時、自動的に送信に戻ります。2人でてきぱき通話しているのも3分にカウントされ、時々2秒程度間を取ってから応答するとタイマーがリセットされます。

■キャリアセンス(受信中は送信できません)

一定の強さ以上の信号を受信しているときは送信できません。受信中に送信しようとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や妨害を与えないための機能です。

注意

セットモード「ビープ音量(bP)」(30ページ)をオフに設定している場合、アラーム音は鳴りません。

2. 付属品

付属品をご確認ください。

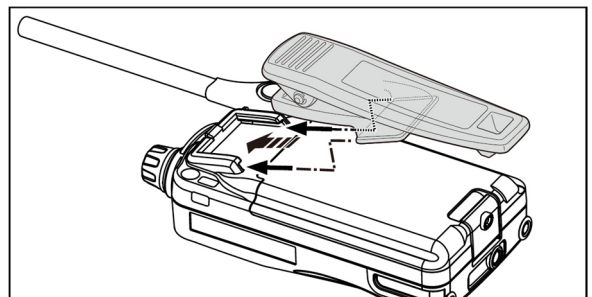
本機 ベルトクリップ EBC-37 簡易取扱説明書 保証書

注意

- 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。
- 保証は、本機と付属品だけに適用されます。
- 弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず保証対象外です。他メーカー製のアクセサリが使えるかどうかは検証していません。直接その製品メーカーにお問い合わせください。

■ベルトクリップの取付け/取外し

ベルトクリップを本機の背面にスライドさせてはめ込みます。取付け後は本機を体の横や腰などに固定してください。また有線式オプションのケーブルは引っかからないように余分な長さを束ねてください。また、取り外すときはロックレバーを押さえながら下方向へスライドします。



参考

ベルトクリップ EBC-37や電池フタはスペア部品をご用意しています。アンテナの様に分解しないと交換できない部品は技術基準適合上の理由から販売できません。修理は販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。

3. 電池の入れ方

単三形アルカリ乾電池、またはオプションのLi-ionバッテリーパック(EBP-70)を装着する方法について説明します。

①ロックを外す

②カバーを開ける

③電池を入れる

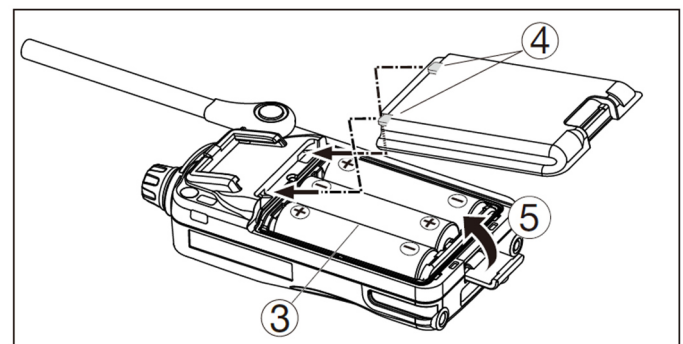
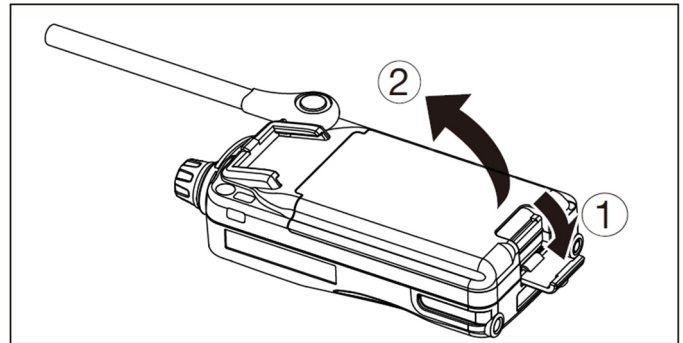
カバー内部に貼られているラベルの+/-の表示に従って、単三形乾電池3本をセットします。EBP-70の場合もラベルの表記に従って入れてください。

④カバーを閉める

ツメを合わせてカバーを閉めます。

⑤ロックをかける

きちんと閉まっていることを確認してください。



重要

- 電池メーカー製の単三形ニッケル水素充電電池（初期電圧1.2V）は使用可能時間が極端に短くなるなど実用に適しません。リチウムイオン乾電池（初期電圧1.8V）は内部の部品を壊す恐れがあるので、絶対に使用しないでください。いずれも製品保証の対象外です。
- 種類が異なる電池や、新品と古い電池を混ぜて使用しないでください。発熱、故障の原因となります。
- しばらく使用しないときは電池を取り外してください。液漏れすると修理できなくなります。

4. 別売 バッテリー・充電器

- Li-ion バッテリーパック EBP-70 (3.7V / 1000mAh)
- ツイン充電器セット EDC-158A
- ツイン連結スタンド EDC-158R (最大4個まで連結、8台の充電) ※EDC-162が必要
- 連結充電用 AC アダプター EDC-162
- シングル充電器セット EDC-184A

注意

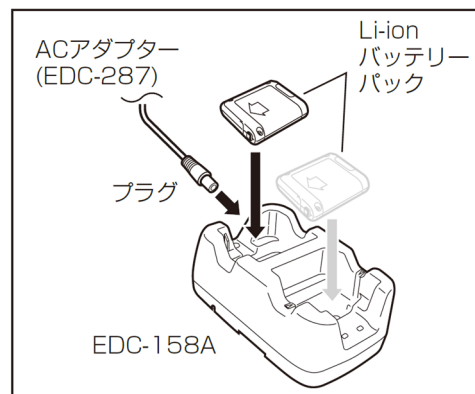
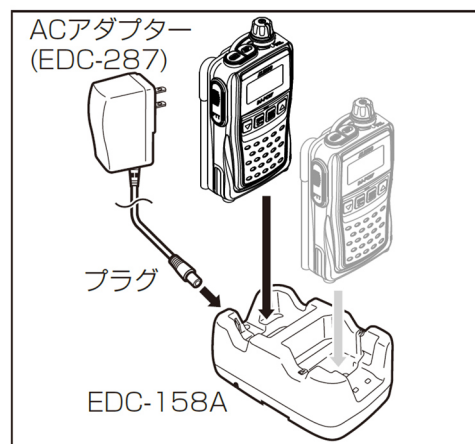
- バッテリーは出荷時には十分に充電されていません。お買い上げ後に満充電してからご使用ください。弊社の充電器は対応する弊社製品専用です。市販のバッテリーを充電することはできません。充電中は本機の電源を切ってください。
- 充電するときは必ず本体の電源を切ってください。充電不良やバッテリーの劣化、故障のほか、バッテリーの膨れや発火の原因になります。

■Li-ion バッテリーパック(EBP-70)の充電 (充電器 : EDC-158A/EDC-184A)

- ①Li-ion バッテリーパック (EBP-70) を極性に注意して本機に装着します。
- ②AC アダプターのプラグを充電スタンドのジャックに接続します。
- ③AC アダプターを家庭用コンセント AC100V に接続します。
- ④電源を切った本機を充電スタンドの、前後いずれかのポケットに挿入します。EDC-158A は2台同時に充電することもできます。
- ⑤充電が開始され、赤ランプが点灯します。
- ⑥完了すると EDC-158A は赤ランプが消灯、EDC-184A は緑ランプが点灯します。

※ バッテリー単品で充電することもできます。空のバッテリーを約2.5時間で満充電にします。バッテリーの極性に注意して充電スタンドに装着してください。

※ バッテリーが満充電に近いと充電開始を知らせるランプが点灯しないことがあります。このようなときは、しばらく本機を使って減電池表示が出たら充電してください。これは過充電を防止する回路が働いているためで、故障や異常ではありません。

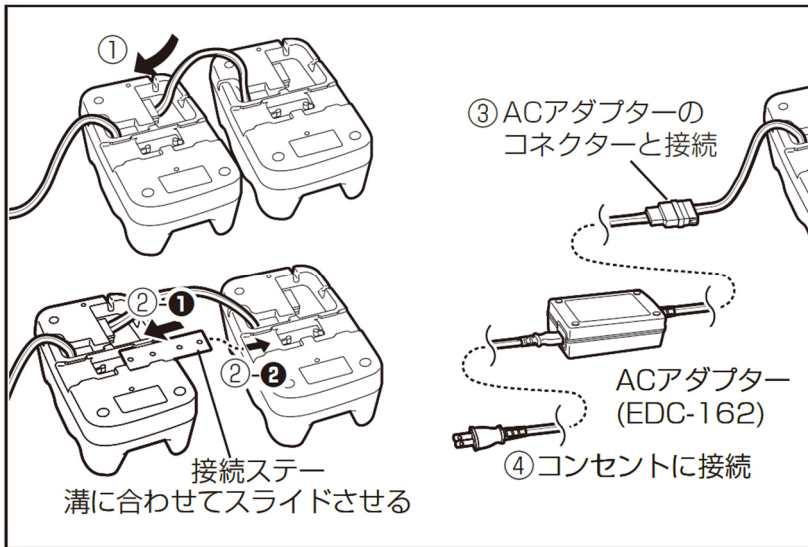


注意

- 充電器の前方のポケットではランプが点灯するが後方のポケットでは点灯しない、あるいはその逆の動作をする場合も、しばらく本機を使って電池を使い切ってから充電してください。充電開始を検知する回路の個体差により、このような動作をする場合がありますが、異常ではありません。
- Li-ionバッテリーパックは正しく取り扱わないと、破裂、火災、やけどの原因となります。「バッテリー使用上のご注意」をよくお読みください。正しく使っても劣化しますので3年を目安、長くても5年以内に新品に交換してください。長く使うほど事故のリスクが高くなります。
- Li-ionバッテリーパックは定格電圧 (50%充電程度) での保存が推奨されています。特に電池が減ったまま保存すると数ヶ月で充電ができなくなることがありますので、定期的に通電して補充するメンテナンスをおこなってください。充電器に本機を挿入してもうまく充電しないときは、充電端子の汚れを乾いた布で拭き取ってください。それでも充電できないときは、サービスセンターにご相談ください。

■連結スタンド EDC-158R による充電

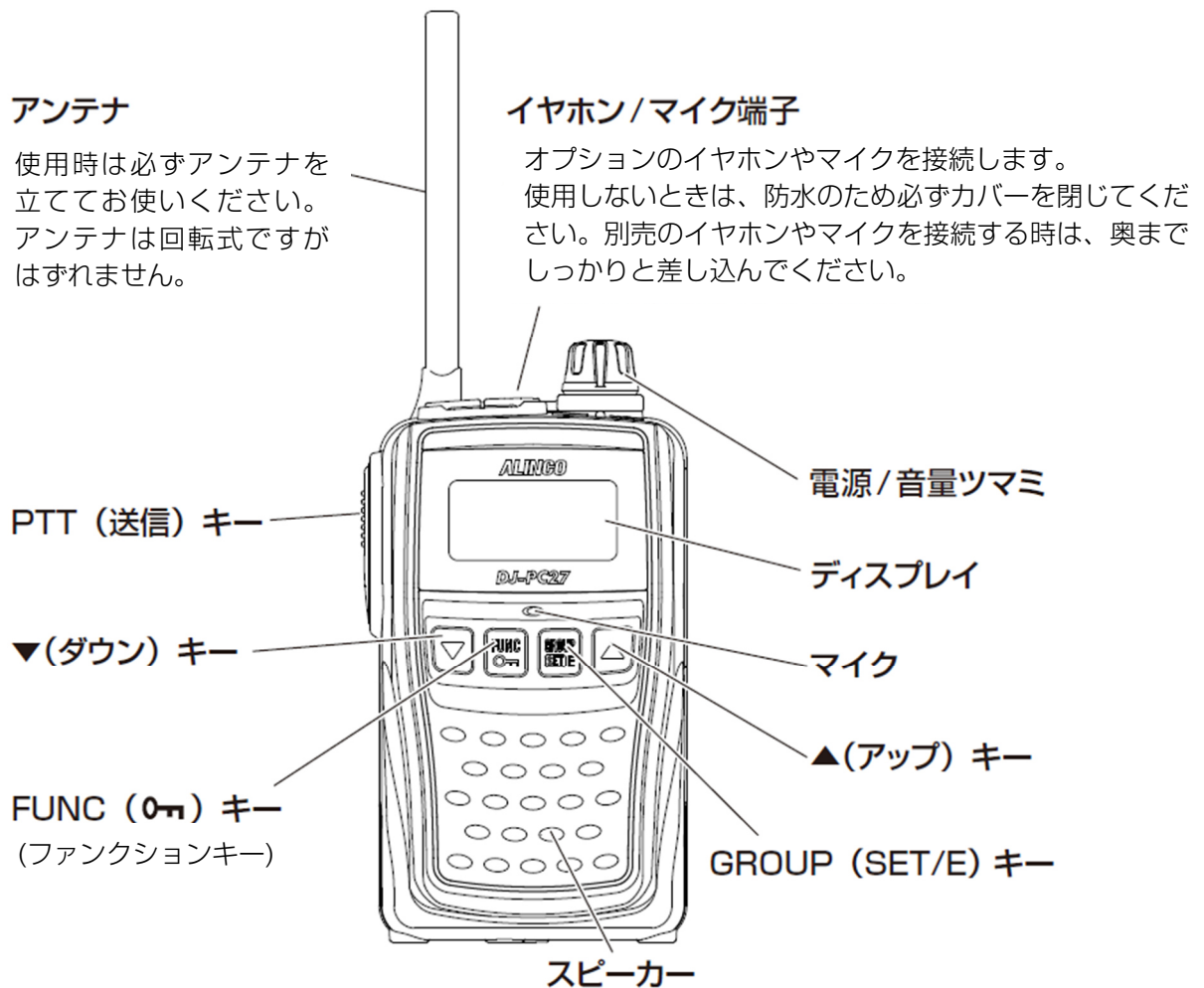
EDC-158R を使用して連結充電する場合、必ず大容量の連結充電用 AC アダプター EDC-162 が必要です。台数に関係なく、空のバッテリーを約 2.5 時間で充電します。必ず前のページの注意書きもお読みください。



- ①スタンドのコネクターどうしを接続します。スタンドは最多 4 台まで連結できます。
- ②付属の接続ステーをスタンド底面の溝に合わせてスライドさせます。確実にスタンドどうしが固定されたことを確認してください。
- ③AC アダプターのコネクターを、端のスタンドのコネクターに接続します。
- ④AC アダプターを家庭用コンセント AC100V に接続します。
- ⑤電源を切った本機、またはバッテリー単品を充電スタンドのポケットに挿入します。充電が開始され赤ランプが点灯します。最多 8 台まで同時に充電することができます。
- ⑥充電が完了すると赤ランプが消灯します。

5. 各部の名前とはたらき

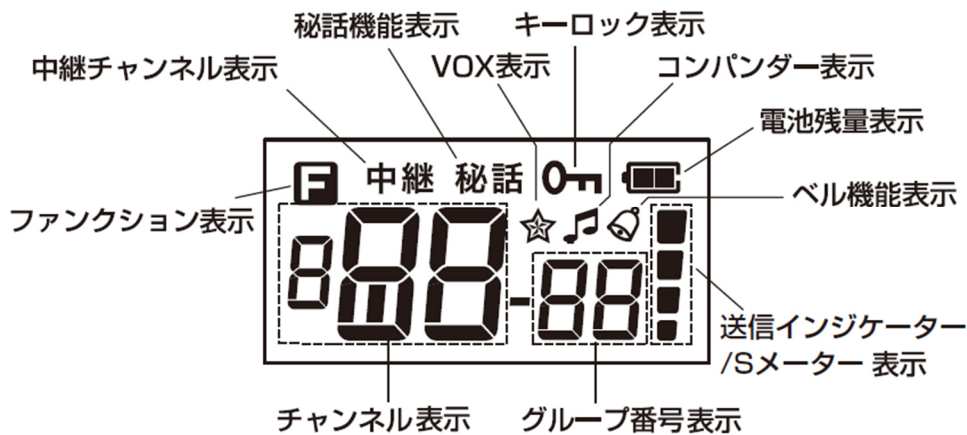
前面部



名称	説明
アンテナ	必ず立ててお使いください。無理に回したり、樹脂部分をもって運んだりするなどのストレスを掛けると故障の原因となります。技術基準適合上の理由から部品は販売できず、修理対応となります。
イヤホン/マイク端子	別売有線式オプションを接続します。大きいジャックがイヤホン端子です。
PTT(送信)キー	話している間、押し続けます。
GROUP(SET/E)キー	グループトーク機能を設定するに使用します。 本書中、グループトーク番号をグループ番号と省略することがあります。
FUNC キー	キーロックやセットモードに入る際に使用します。
▲(アップ)キー	押すと設定を昇順に変えられます。
▼(ダウン)キー	押すと設定を降順に変えられます。
電源/音量つまみ	右に回すと電源が入り、音量が上がります。大きな音が出るので徐々に回してください。左に回し切ると電源が切れます。
ディスプレイ	次ページで説明します。
マイク	別売マイクを使わないときはここに向かって話します。5cm 程度口から離してください。

ディスプレイ

特定の機能を使用中は、下記のアイコンが表示されます。



※[Er-nG]表示はイヤホンやイヤホンマイクのイヤホン部分が断線していることをお知らせしています。
25 ページで詳しく説明しています。

■多数の無線機を使うときや、買い増しされたときに便利な ACSH 機能

買い増した本機を今お使いの設定に合わせたいときや、多数を導入するとき一台ずつ手でチャンネルを合わせるのが面倒なときにおすすぬ機能です。簡単な操作で、複数台でも一度にチャンネルとグループトーク番号を自動設定できます。特定小電力トランシーバーであればメーカーを問わずに合わせられます。次項の「6. 基本操作」をご覧くださいの上、20 ページの「13. ACSH (アクシュ) /チャンネルとグループ番号の自動設定」をお読みください。

6. 基本操作

■ キー操作

「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。「キーを長押し」とは約 2 秒間押し続けることを指します。

■ 電源の入り切り/音量を調整する

電源/音量つまみを時計方向に回すと電源が入り、待受表示になります。さらに回すと音量が上がります。電源を切る場合は、つまみを反時計方向に回し切ります。電源を入れたときの「Er-nG」表示はイヤホン断線をお知らせしています。詳しくは 25 ページを参照してください。本機は音が大きくなるのが特徴です。音量の上げすぎにご注意ください。

7. 交互通話 ※中継通話の子機として使うときは次ページの「8：中継通話」からお読みください。

一人が話す音声を同じチャンネルに合わせている全員が受信します。複数の人が同時に送信したり、話し中に割り込んだりすることはできません。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。交互通話対応特定小電力トランシーバーであれば、チャンネル、グループトーク番号、コンパウンダー設定を合わせれば他メーカーの製品とも通話できます。ただし秘話、通話圏内表示、空きチャンネルサーチなど、類似の機能が採用されていても、メーカーが違くと動作しないことがほとんどです。

■ チャンネルを合わせる

[▼]または[▲]キーを押して交互通話用チャンネル(CH)の L01～09、b01～11 を選択します。通話したいトランシーバー全てを同じチャンネルに合わせてます。キーを押し続けると連続してチャンネルが切り替わります。どの CH も自由に使うことができ、通話距離は変わりません。

他社製の 01～11CH は本機の b01～b11、12～20CH は L01～L09 で試すか、後述の ACSH 操作でチャンネルを合わせてください。グループ番号は共通です。



■ グループトークを設定する

既にお使いのトランシーバーに設定されていたら、19 ページの「10.グループトーク機能」を参照してグループ番号を合わせます。他人からの混信を聞かなくて済む便利な機能なので、新規に導入されるときも 01 以外の番号にしてお使いください。

■ 受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの Sメーターが信号の強さに応じて表示されます。グループトーク使用中は、番号が一致した信号でないと Sメーターが表示されていても音声は聞こえません。



参考

- 本機はテールノイズキャンセラー機能を搭載しており、アルインコの対応機種間では相手の話終わりに聞こえる「ザッ」というノイズが自動的に低減されます。
- 受信待受状態で約5秒間キー操作がないとバッテリーセーブ機能(33ページ)が動作します。バッテリーセーブ中に信号を受信すると通話の始めが僅かに途切れる場合がありますが、異常ではありません。[PTT]キーを押した後、一呼吸おいてから話し始めるとスムーズに通話できます。セットモード「スタートピー(SP)」(30ページ)をonにすると話し出すタイミングを「ピ」音で知らせます。

■ 送信する

信号を受信していないことを確認してから、[PTT]キーを押します。ディスプレイの送信インジケータが表示され送信が始まります。[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。マイクと口元は約 5cm 離してください。一定の強さ以上の信号を受信しているときは警告音「プププ」が鳴り送信できません。[PTT]キーを離すと受信待受状態に戻ります。セットモード「PTT ホールド(PH)」(31 ページ)を on にすると、一度[PTT]キーを押すと送信状態を保持、もう一度押して解除するまで手が使えるハンズフリー運用ができます。

8. 中継通話 ※中継器を使わないときはこの機能は使用しません。

直接では電波が届かない相手と別売の中継器を介して交互通話ができます。電波の届くところであれば人数に制限なく通話できます。本機では中継器は1台のみで、連結中継はできません。弊社の中継対応機なら本機以外の子機も混用できます。既に中継システムを運用中であれば、本機をACSHで簡単にチャンネルとグループ番号が設定できます。中継器の取扱や操作方法は中継器の取扱説明書をお読みください。本機をリモコンとして中継器を設定する方法は23ページに記載しています。中継器の「周波数帯A/B切り替え」は初期値のまま変えないでください。

■ チャンネルとグループ番号を合わせる

[▼]または[▲]キーを押して中継器と同じチャンネル(L10~18、b12~29)にした後、次項で説明するグループ番号を選択します。ディスプレイに「中継」が表示されます。中継器と子機は同じメーカーでないとき相性問題で通話不良が起きることがあります。他社製中継器を使用する動作保証はできません。

中継器も新しく設置される場合は、ここで中継器を本機と同じチャンネルとグループ番号に設定してください。壁などへの取付けは下記の送受信テストが終わった後に行ってください。



■ 受信する

中継器にアクセスできる距離に居れば交互通話と同じです。受信するとディスプレイのSメーターが表示され、音声が届きます。Sメーターは信号の強さに応じて表示します。

■ 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押し続けます。ディスプレイの送信インジケータが表示され、「ピピ！」とアクセス音が鳴ったらマイクに向かって話します。話し終わったら指を離します。中継器はグループトークを設定して使うのが原則です。通話できないときはチャンネルとグループ番号が中継器の設定と同じか確認してください。

注意 ●中継用チャンネルでは、子機同士の直接通話はできません。
●それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。子機-中継器間、子機-子機間は10m以上離してください。

9. コールトーン機能

[PTT]キーを押したままで[▼]または[▲]キーを押すと、呼び出し音を送出して相手の注意を喚起できます。[▼]と[▲]キーでは音色が異なります。

10. グループトーク(グループ)機能

グループ（トーク）番号が一致した信号だけ受信音が出ます。番号が合わない別ユーザーの混信を聞かなくて済む便利な機能で、ノイズの一部を低減することもあります。既にお使いのトランシーバーに下図の01のような番号が表示されていたら、同じ番号に合わないと通話できません。「相手の声は聞こえるが、自分の信号は相手に届いて S メーターも触れているのに声が出ていない」ときはこの機能がお持ちのトランシーバーに設定されていません。特に中継器は誤アクセスを防ぐためにグループトーク使用が基本です。今回、新規に中継器と子機をセットで設置されるときも、この機能の使用をお勧めします。

■ [GROUP(SET/E)]キーを押す

チャンネル表示の右側にグループ番号が表示されます。



■ グループ番号を合わせる


[FUNC]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押して自分のグループのトランシーバーをすべて同じ番号に合わせます。01～50からなるべく他人が選ばないような番号にすると効果的です。01は多用されるので避けてください。長くお使いの個体と混用するときは02～36の範囲で選ぶと相性による通信不良が起きにくくなります。

注意 チャンネルとグループ番号が一致している人とのみ通話ができます。相手がグループトークを設定していない場合、こちらの声は相手に聞こえます。他人の声を聞かなくて済むだけで、混信除去や秘話機能ではありません。


11. キーロック機能

誤操作を防止できます。「簡易」は設定をひんぱんに変えるようなとき、「通常」は誤操作で解除されにくいので複数の使用者が同じ個体を運用するようなときにおすすめします。電源オンオフと音量は変更できます。キーロック中は、[FUNC]キー・[GROUP(SET/E)]キー・[▲]キー・[▼]キーの操作はできません。解除するには同じキー操作をしてください。リセットするとLoc1、Loc2のどちらでも解除されます。

■ 簡易キーロック(LoC1)

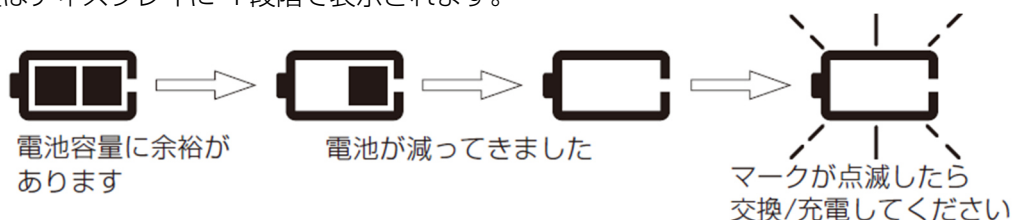
[FUNC]キーを約2秒押します。「LoC1」が点滅した後[]アイコンが表示されます。

■ 通常キーロック(LoC2)

[FUNC]キーと[GROUP(SET/E)]キーを同時に約2秒押します。「LoC2」が点滅した後、[]アイコンが表示されます。

12. 減電池表示

電池の残容量はディスプレイに4段階で表示されます。



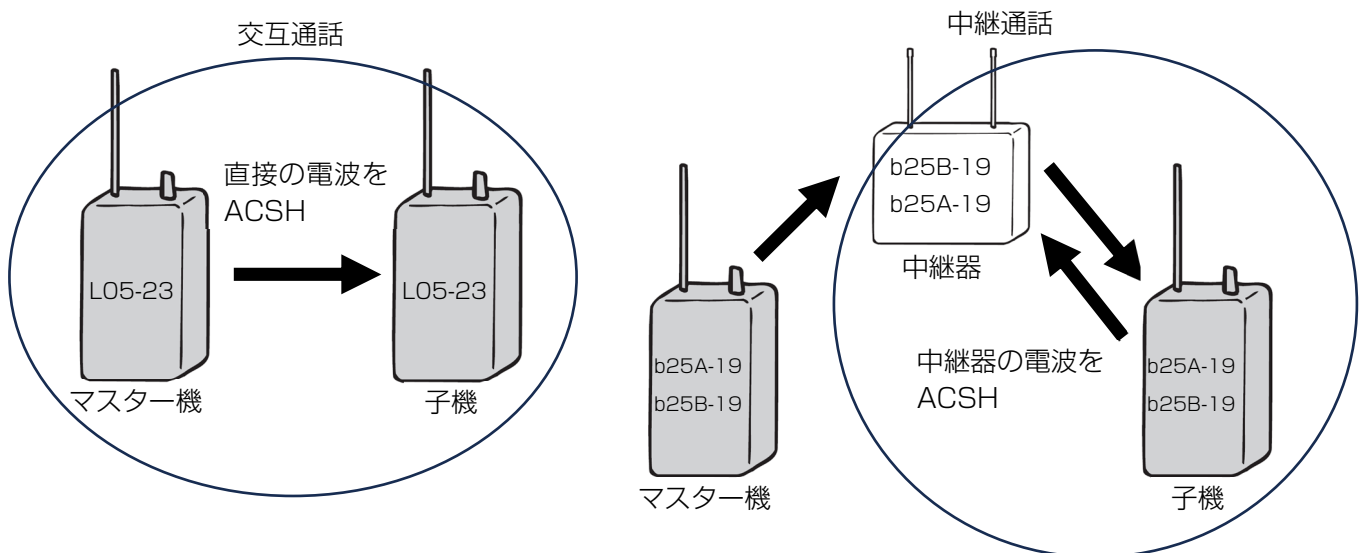
参考

- 「電源が入らない」「ディスプレイ表示が消える」「ハウリング」「オンオフを繰り返す」などの症状が出た場合も電池の消耗が考えられるため、新しい電池と交換するかバッテリーを充電してください。
- しばらくご使用にならない場合は、必ず電池を取り外してください。
- 表示が出る前に電池がなくなった、充電したばかりなのに表示が出ているなど不正確な時はセットモード「電池選択(bt)」(29ページ)設定が正しいかご確認ください。

13. ACSH (アクシュ) /チャンネルとグループ番号の自動設定

すでに使用している無線機（交互通話は他社製も含む）のチャンネルとグループ番号をスキャンして、本機に同じ内容を自動設定する機能です。交互通話・中継子機通話に対応しており、交互通話の場合は、あらかじめ通話モードを設定したマスター機と本機が必要です。中継子機通話の場合は、中継器1台とマスター機1台をセットで用意し、中継器の近くで操作を行ってください。

- 重要**
- 自動設定中は電源を切らないでください。設定を反映せず元の状態に戻ります。
 - 本機が電波を検出しているときは、マスター機のマイクから音声が入らないようにご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
 - ACSHで設定を行う場合、マスター機のグループ番号は01～38番にすることをおすすめします。39～50番に設定していると誤判定により違うグループ番号が反映されることがあります。
 - 自動設定後は簡易キーロック状態(20ページ)になります。手動でチャンネルやグループ番号を変更したい場合は、[FUNC]キーを約2秒長押しして、カギのアイコンを消してください。設定が終わったら同じ操作でキーロックしてください。



※ACSH するときには近くで通信しないでください。

中継子機の ACSH では、マスター機ではなく、中継器の近くに子機を置いて操作してください。

■操作

- ①マスター機と ACSH したい本機（子機）を用意します。誤判定を防ぐために近距離で作業してください。複数台同時に設定できます。
- ②子機の電源を切ります。
- ③[GROUP(SET/E)]キーを押し続けながら子機の電源を入れます。約5秒間、待受け画面が表示されても押し続けてください。
- ④「ACSH」が点滅表示します。ACSH したい子機全てをこの状態にしたら、マスター機を送信状態で保持します。
- ⑤マスター機の電波を受信すると「ピピ」音が鳴って、ディスプレイに「Ac-rn」と点滅表示され設定を始めます。そのまましばらく待ちます。数秒から最長で2分程度掛かることがあります。
- ⑥設定が終わると「プルル」音とともに、ディスプレイに「oo oo」を表示して、自動的に簡易キーロック状態で再起動します。
全ての子機の ACSH が終わったらマスター機の送信を停止して、通話できるかお互いに確認します。

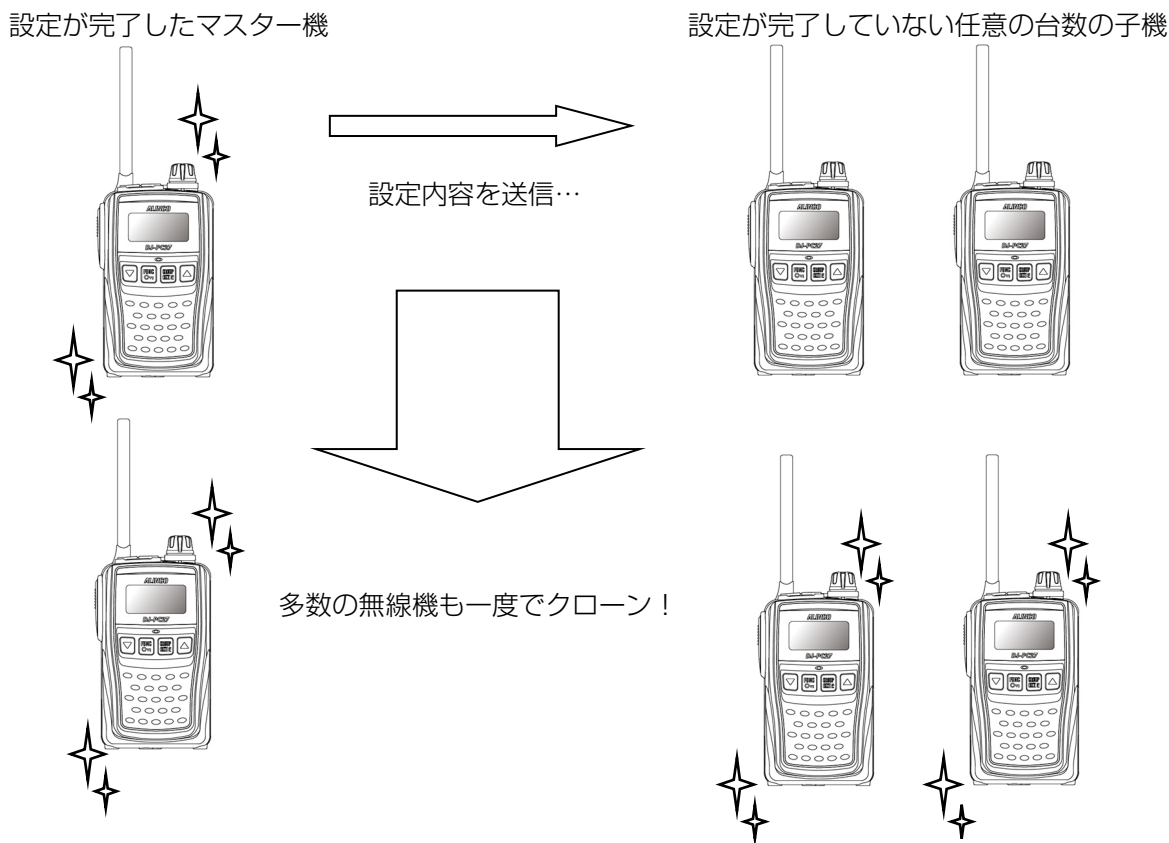
設定に失敗した個体はリセット (25 ページ) して②からやり直してください。

設定ができれば 17 ページの交互通話、または 18 ページの中継通話をお読みください。

14. エアクローン

設定が済んだDJ-PC27(マスター機)の設定内容を送信し、複数の子機を一度に自動設定できます。ACSHはチャンネルとグループ番号ですが、エアクローンはセットモード内容まで全て自動設定できます。多数のセットモード項目をカスタマイズしてお使いのハードユーザーは、誤操作、誤設定した子機を回復したり新しい設定にプログラムしなおしたりするときに本機能をご活用ください。

[概要]



■操作

子機は現在の状態に関係なくマスター機の内容を上書きします。操作前のリセットやキーロック解除は不要です。

- ①エアクローン用のマスター機を1台、説明書に従って手動で設定します。
マスター機にキーロックしてなくても、エアクローン後の子機は簡易キーロックが掛かります。「キーロックしない」だけはエアクローンで設定できません。
- ②マスター機も子機も減電池警告が出ていないことを確認して電源を切ります。全ての個体をなるべく近くに集めて強い電波で受信できるようにします。電波環境が悪いと設定内容が正しくクローンされません。
- ③電源を切り、[▲]キーと[PTT]キーを押しながら電源を入れ、ビープ音が鳴り起動画面になっても約5秒間そのまま両方のキーを押し続けます。「ブブブブ」というビープ音が鳴ったら「Ar-CL」が点滅表示します。この操作をマスター機と子機全てに行います。
- ④マスター機の[PTT]キーを3秒間押し続けると設定情報の送信が始まります。「ピピ」という音が鳴り、「Ar-rn」が点滅表示したら[PTT]キーを放します。子機はマスター機からの信号を受信すると「ピピ」と鳴り、「Ar-01」が点滅表示します。設定が進むにつれ数字が増え、数字「08」を表示したらベル音が鳴って「oooo」点滅に変わり、自動的に子機の電源が切れます。クローンしたい子機がすべてこの状態になったことを確認してから親機の電源を切ります。

※設定が終わったらマスター機と通話できるか、全ての子機で確認します。

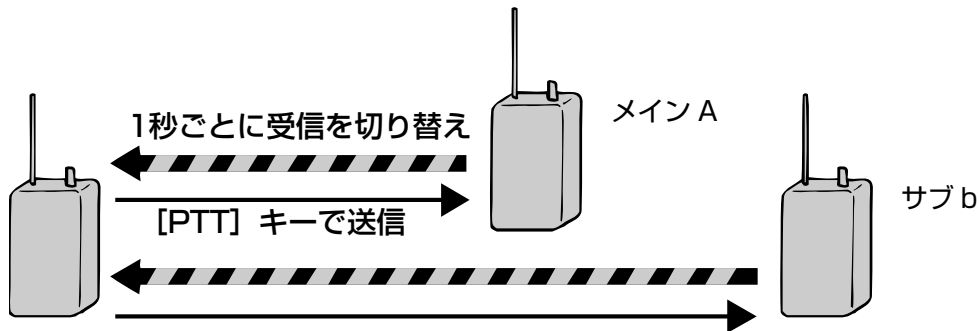
※クローン操作中は電源を切らないでください。設定内容が正しくクローンされません。誤って切れてしまった子機は工場出荷リセット(25ページ)をして、②からやり直してください。

※あとから設定を手動で変えるときは[ファンクション]キーを2秒間長押しして簡易キーロックを解除してください。

15. デュアルオペレーション

メインA/サブbの2つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。使用前にサブ b の登録が必要です。登録できる通話モードは交互通話・中継子機通話です。

- 重要**
- セットモードの「緊急通報(EmG)」(32 ページ)を on に変更していたら、操作を始める前に oF(初期値)に戻してください。登録後に設定をオンにし直せばメイン A 側で緊急通報できます。
 - メイン A とサブ b が同じチャンネルの場合、ディスプレイに「E」表示が点滅して本機能は動作しません。必ず別々のチャンネルに設定してください。



■操作

- ① サブ b として使うチャンネルに合わせ、グループ番号ほかの機能設定を済ませたら、[GROUP(SET/E)] キーを長押しします。「b writ」と表示され、サブ b が登録されます。
- ② メイン A として使うチャンネルとグループ番号に合わせて、[PTT]キーを一回押した後に一度電源を切ります。
- ③ [▼]キーを押しながら電源を入れると、ディスプレイに「dUAL」と表示されデュアルオペレーションに入ります。電源を切るとデュアルオペレーションは解除されます。常にデュアルオペレーションで起動したいときは、キーロックしてください。デュアルオペレーション中でもキーロック操作は可能です。

■送信 (メイン A/サブ b)

メイン A : [PTT]キーを押し続けます。ディスプレイに「mA」が表示されたらマイクに向かって話します。

サブ b : [PTT]キーを1回押して離し、続けて2回目を押し続けます。

ディスプレイに「Sb」が表示されたらマイクに向かって話します。

話し終わったら、[PTT]キーを離します。キーを離すと待受けに戻ります。話し終わって約5秒間は最後に送信した側を保持します。その後、1秒間隔でメインA/サブbを切り替えます。別売のイヤホンマイク使用時、メインAチャンネルはイヤホンマイク、サブbチャンネルは本体のPTTで操作できます。拡張セットモードの「25: オプションマイクの有効/無効設定」(34ページ)でdSを選びます。

- 注意** デュアルモード運用中は、[PTT]キーを押してから送信されるまで、通常時よりも時間が掛かります。てきぱき通話しているときは mA や Sb 表示は出ません。

■受信 (メイン A/サブ b)

メイン A : 受信するとディスプレイに「mA」が表示され「ピッ」音が鳴ります。

サブ b : 受信するとディスプレイに「Sb」が表示され「ピピッ」音が鳴ります。



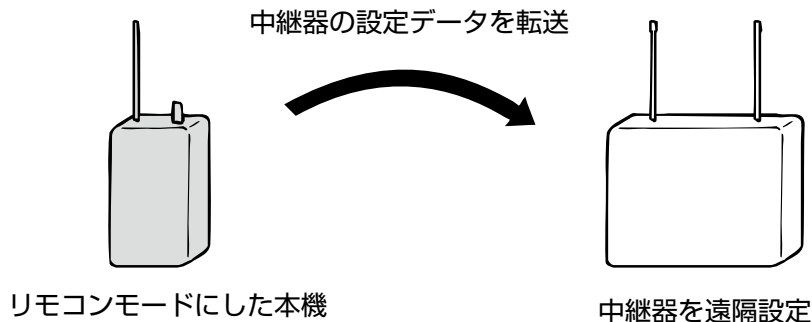
- 参考**
- mA/Sbが表示された後は、続けて受信中のチャンネル表示に切り替わります。
 - 受信を交互に切り替える仕様上、バッテリーセーブが強制的にオフになり電池の消耗が早くなります。

16. 中継リモコン

本機をリモコンとして中継器のチャンネルを遠隔設定できる機能です。

*対応中継器： DJ-P102R / DJ-P113R / DJ-P114R / DJ-P115R / DJ-P116R / DJ-R200D
(2026年6月現在)

重要 中継器の設定に関する説明や注意点は、中継器の取扱説明書をお読みください。



■リモコンモード

キーロックを解除して、中継器のなるべく近くで作業してください。

- ① [▲]キーを押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「rmCon」と表示後、[中継]アイコンが点滅します。
- ② 中継チャンネルとグループ番号を設定します。設定後は子機も同じものを使います。
- ③ 必要に応じて中継接続手順、中継ハングアップ、中継アラーム、ノイズキャンセラーの各機能も設定できます。詳細は下記「各種設定方法」をお読みください。
- ④ 待受で[PTT]キーを長押しすると「ピピッ」音が鳴り、ディスプレイに「SEnd」が表示され、送信します。
- ⑤ 設定が完了すると「ブルル」音とともに、ディスプレイに「oo oo」と表示され、自動的に待受表示に戻ります。
- ⑥ 一度電源を切り、再度電源を入れることでリモコンモードから抜けます。
- ⑦ 設定が完了したら、中継器にアクセスできるか確認します。確認出来たら残りの子機も同じ設定にします。台数が多い時はACSH機能(20ページ)を使います。

■各種設定方法

- ① リモコンモード中に[FUNC]キーを押しながら、素早く[GROUP(SET/E)]キーを押します。
アルファベットが表示されるセットモードになります。
- ② [GROUP(SET/E)]キーか[FUNC]キーを押すと設定項目が変わります。
- ③ [▼]キーか[▲]キーを押して設定値を選びます。
- ④ 全ての項目を設定し終わったら[PTT]キーを押して確定します。画面は待受け表示に戻ります

1：中継器接続手順 (At)

設定値 off(表示：oF)/on (初期値 on)

中継アクセス時の自動接続手順を変更、解除する機能です。通常は on にしてください。
他社製品の子機を使用する場合、設定値を変更すると通信できる場合があります。

2：中継ハングアップ (HuP)

設定値 00 / 05 (0.5 秒) / 10 (1 秒) / 20 (2 秒) (初期値 00)

無線機からの送信が終わっても中継動作を保持する時間を設定できます。中継器からの電波を受信すると正しく中継器にアクセスできていることが分かります。

3：中継アラーム (AL)

設定値 off(表示：oF)/on (初期値 oF)

中継動作終了時に中継器からアラーム音を送信する機能です。アラーム音を受信すると正しく中継器にアクセスできていることが分かります。

4：ノイズキャンセラー (nS)

設定値 off(表示：oF)/on (初期値 oF)

ノイズキャンセラー対応中継器のみ設定できます。ノイズキャンセラーの詳細な動作は中継器の取扱説明書をご参照ください。

重要

- ノイズキャンセラー非対応機種に on 設定を転送しても、本機能は動作しません。
- 中継器のノイズキャンセラーを on にしたときは、子機のコンパウンダーなど特定の機能の設定をオフにしないと正常に動作しません。必ず中継器の取扱説明書「ノイズキャンセラー」の項目をご参照の上、子機の設定にもご留意ください。

17. モニター機能

弱い信号やグループ機能で聞こえない音声を一時的にモニターしたい時に使います。システム管理者がチャンネル番号を決めたり、誰からの混信かチェックしたりするときに使うもので、一般ユーザーは使いません。動作中、信号を受信していないときは「ザー」音が聞こえます。拡張セットモードで「モニター機能 (my)」を on または Hd に設定します。on は[▼]と[▲]キーを同時に押している間、モニター状態になります。Hd にしたときはもう一度[▼]と[▲]キーを同時に押すまでモニター状態を保持します。モニター中は S メーターが表示されます。セットモードの項目(36 ページ)をよく読んでから設定してください。本機の音声出力は大きいので、音量を上げてモニターすると大きなホワイトノイズが出るのでご注意ください。

18. イヤホン断線検知機能

起動時に、接続したイヤホンマイクのイヤホンやイヤホンの断線を検知して、異常があればお知らせします。断線していると 10 秒間ディスプレイに「Er-nG」を表示して、本体のスピーカーでアラーム音を鳴らします。

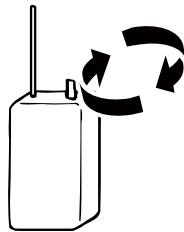
※特殊な用途で特定のオプションを使用すると常に動作するので、セットモード「イヤホン断線検知(Er)」で解除できるようになっていますが、通常の連絡用途では ON にしておくことをお勧めします。

19. 最適チャンネルサーチ

全てのチャンネルを自動受信(サーチ)して使用頻度を調べ、チャンネル選定時の参考にできます。

重要

- サーチするときは本機を通話エリア内で一番外来電波を受信しやすい場所に置いてください。屋内であれば一番上にある窓際、屋外であればなるべく高く全体が見渡せる場所などです。
- 本機能はあくまで空きチャンネルを見つける目安としてお使いいただくものです。サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。
- 使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルも、混信しやすい傾向があります。使用頻度が高いチャンネルから、なるべく離れたものを選んでください。
- チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されているため、避けておくことをおすすめします。
- サーチ中はバッテリーセーブが動作しないため、電池の消耗が早くなります。



全てのチャンネルを自動で切り替えて受信、信号があるチャンネルで止まった回数を記録して表示します。

■最適チャンネルサーチモード

- ① [PTT]キーと[▼]キーを同時に押しながら電源を入れます。
- ② ディスプレイに「bSt-Sc」と表示されたあと「L01- 0」が表示され、チャンネルが 0.5 秒ごとに自動的に切り替わり、受信信号があるかサーチします。
- ③ 外来の電波を受信しやすい場所に置き、サーチします。
- ④ [PTT]キーを約 3 秒間長押しします。「ププ」音が鳴ってサーチが止まり、「L01- (数値)」が表示されます。
- ⑤ [▲]キーまたは[▼]キーを押して、チャンネルを切り替えていき、チャンネルの右側に表示されている数値を確認します。数値が大きいほど使用頻度が多く、小さいほど少なくなります。使用頻度が「0」のチャンネルを確認しておきます。
- ⑥ 本機の電源を入れ直して通話モードに戻り、チャンネルを使用頻度が「0」のものに設定します。



参考

通話モードに戻る前に再度サーチを行う場合は、もう一度[PTT]キーを約 3 秒間長押しします。現在の測定結果は上書きされます。47 チャンネルをすべてスキャンするのに 20 秒以上かかります。混信にお悩みでしたら実際にトランシーバーを使う時間帯に、曜日を変えてサーチすると使用頻度が低いチャンネルの目安が付けやすくなります。

20. リセット

■簡易リセット

[FUNC]キーを押しながら電源を入れ、ディスプレイに全表示が出たら指を離します。L01 で起動したら完了です。チャンネル、グループトーク、各種機能、拡張部分を除くセットモード設定が初期化されます。

■工場出荷リセット

[▼]キー、[FUNC]キー、[GROUP(SET/E)]キーを同時に押しながら電源を入れ、ディスプレイに全表示が出たら指を放します。拡張機能も含めた全ての設定が工場出荷状態まで初期化されます。



参考

チャンネルとグループ番号だけを設定してシンプルにお使いのときに、普段出てこないアイコンが画面に表示されたり、[PTT]キーがいつもと違う動きをするなどでお困りになったら簡易リセットして番号を合わせなおすのが一番早い回復方法です。

21. セットモード一覧表

注意 グレー反転表示の部分は後述の拡張セットモードをオンにすると表示されます。

No.	項目	初期値	No.	項目	初期値
1	電池選択	bt-AL	19	スケルチレベル	Sq-3
2	コンパクター	CP-oF	20	キーロック時間	Lt-2
3	VOX	vo-oF	21	バッテリーセーブ	bS-on
4	秘話	SC-oF	22	電池電圧参照	○.○○
5	ビープ音量	bP-Lo	23	マイクゲイン	mG-4
6	スタートピー	SP-oF	24	デュアルオペレーション再開時間	dt-5
7	エンドピー	EP-oF	25	オプションマイクの有効/無効	iPt-oF
8	ベル	bL-oF	26	緊急警報鳴動時間	tEG-10
9	ランプ(バックライト)	LP-5	27	秘話周波数	FSC-34
10	PTT ホールド	PH-oF	28	秘話エンファシス	EmP-on
11	PTT オフ	Pt-on	29	減電池アラーム	Cbt-oF
12	中継自動接続手順	At-2	30	グループ選択	Gr-tn
13	イヤホン断線検知	Er-on	31	VOX ディレイ時間	tvo-10
14	コールバック	Cb-oF	32	チャンネル表示	CH-AL
15	送信出力	Po-Hi	33	トーンマージン	to-2
16	緊急通報	EmG-oF	34	テールノイズキャンセル	tC-on
17	接客モード	rmt-oF	35	外部音量変更	EvL-Lo
18	本体音量レベル変更	ivL-Hi	36	受信音ミュートレベル	rmS-4
			37	受信音ミュートディレイタイム	rmd-3
			38	減電池スリープ	Sbt-on
			39	モニター	my-oF

○…………… 全ての設定値が使用できます。

×…………… 該当するモードでは強制的にオフとなり使用できません。

※…………… 拡張セットモードです。

■拡張セットモードは管理者向けです。通常セットモードよりも高度な内容で、意味を理解せずに勝手に変更すると通信できなくなる、故障と間違ふような動作をする、などトラブルのもととなります。

■拡張セットモードは簡易リセットでは初期化されません。工場出荷リセット(25 ページ)にて初期化が可能ですが、チャンネルその他の設定も全て初期化されます。

■セットモード操作中は、送信ができなくなります。

通話モード別機能表

	交互通話	中継子機通話	デュアル オペレーション
電池選択	○	○	○
コンパクター	○	○	○
VOX	○	○	×
秘話	○	○	○
ビープ音量	○	○	○
スタートピー	○	○	○
エンドピー	○	○	○
ベル	○	○	○
ランプ (バックライト)	○	○	○
PTT ホールド	○	○	○
PTT オン/オフ	○	○	○
中継自動接続手順	×	○	○
イヤホン断線検知	○	○	○
コールバック	○	○	○
送信出力	○	○	○
緊急通報	○	○	○
接客モード	○	○	×
本体音量レベル変更	○	○	○
スケルチレベル*	○	○	○
キーロック時間*	○	○	○
バッテリーセーブ*	○	○	×
電池電圧参照*	○	○	○
マイクゲイン*	○	○	○
デュアルオペレーション再開時間設定*	×	×	○
オプションマイクの有効/無効*	○	○	○
緊急警報鳴動時間*	○	○	○

	交互通話	中継子機通話	デュアル オペレーション
秘話周波数*	○	○	○
秘話エンファシス*	○	○	○
減電池アラーム*	○	○	○
グループ選択*	○	○	○
VOX ディレイ時間*	○	○	×
チャンネル表示*	×	○	○
トーンマージン*	○	○	○
テールノイズキャンセル*	○	○	○
外部音量変更*	○	○	○
受信音ミュートレベル*	○	○	×
受信音ミュートディレイタイム*	○	○	×
減電池スリープ*	○	○	○
モニター機能*	○	○	○
コールトーン	○	○	○
グループトーク	○	○	×
キーロック	○	○	○
リセット	○	○	○
ACSH	○	○	×
エアクローン	○	○	×

22. セットモード基本操作

本機をもっと使いやすくするために、各種機能をカスタマイズできます。
拡張設定すると、増えた項目が通常のセットモード項目に続けて表示されます。

■ セットモードの設定方法

- ① 待受で[FUNC]キーを押しながら、素早く[GROUP(SET/E)]キーを押します。
- ② セットモード一覧表の順序通りに項目を移動するには[GROUP(SET/E)]キーを押し、逆は[FUNC]キーを押します。
- ③ [▼]キーまたは[▲]キーを押すと、設定値が選べます。
- ④ 設定が終わったら[PTT]キーを押します。設定値を確定して待受けに戻ります。

■ 拡張セットモードの設定方法

- ① 待受で[FUNC]キーを長押しし、キーロックをかけます。
- ② キーロック後[FUNC]キーを離し、続けて[GROUP(SET/E)]キーを5回連続で押すと、「ピピ」音が鳴り、拡張セットモードがオンになります。
- ③ セットモードに入り、設定項目が増えていることを確認します。操作は通常のセットモードと同じです。

※拡張状態にすると項目が増えて煩わしいので、同じ操作を繰り返すと通常のセットモードだけを表示できます。拡張設定した状態は保持されています。設定変更するにはもう一度拡張セットモードに入り直してください。工場出荷リセットは拡張も含む全ての機能と設定を初期化できます。

23. セットモード項目

セットモードで設定できる機能の内容と設定値の一覧です。設定値の表記は実際のディスプレイ表示に合わせています。

* マークが付いているのは拡張セットモードの項目です。

1：電池選択 (bt)

設定値 AL/Li (初期値 AL)

減電池アイコンで電池残量を正しく表示させるため、お使いの電池に合わせてください。「新しい電池なのにすぐに減電池表示が出る」「電池が無くなる寸前まで警告が出ない」などはこの設定を確認ください。

AL : アルカリ乾電池

Li : EBP-70(Li-ion バッテリーパック)

2：コンパnder (CP)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 oF) *on 時：[🎵]アイコン点灯

無音の信号を受信時に聞こえるかすかな「サー」音を低減します。通話グループすべてが対応していないと逆に音が悪く聞こえます。他メーカー製でもコンパnder機能は共通です。

注意 コンパnder機能のないトランシーバーと通話する場合には、コンパnder機能は必ずoff にしてください。逆に音質が悪くなる場合があります。

3 : VOX (vo)

設定値 off(表示 : oF) / Lo / Hi (初期値 oF) *Lo/Hi 時 : [☆]アイコン点灯

「ボックス」と呼ばれる、マイクに向かって話している間は送信、黙ると受信に戻るハンズフリー機能です。環境音が大き目で勝手に送信するときは Lo、比較的静かな場所では Hi を選びます。環境音が大きくて Lo でも勝手に送信するときはこの機能は使えません。送受信切り替えのタイミングは拡張セットモード「受信音ミュートディレイタイム(rmd)」(36 ページ)で選べます。声を出してから送信が始まるまでに僅かなタイムラグが生じます。話し方で工夫してください。

注意

- VOXで送信中に、[GROUP(SET/E)]キーを押すと送信を一時的に停止できます。
- イヤホンマイクやヘッドセット接続中は本体マイクで本機能は動作しません。オプションのマイクに向かって話してください。
- セットモード「減電池アラーム(Cbt)」(35ページ)を設定した場合は本機能の動作が鈍くなります。
- スピーカーマイク (例 : EMS-59)など、品番の末尾にAが付かないマイクではVOXやPTTホールドは動作しません。

4 : 秘話 (SC)

設定値 off(表示 : oF) / on (初期値 oF) *on 時 : [秘話]アイコン点灯

弊社製の対応機種間に設定すると、設定しない人には内容がわからないモゴモゴした声に聞こえます。ただし、アルインコのトランシーバーやレシーバーで同じ設定をすると簡単に聞こえるセキュリティが低い秘話です。仕様上、若干受信音質が変わり、明瞭度も下がります。

5 : ビープ音量 (bP)

設定値 off(表示 : oF) /Lo/Hi (初期値 Lo)

本機操作時のビープ音量を変更できます。本機の通話の音量とビープ音量は連動しません。オフにすると各種警告音も鳴らなくなります。

6 : スタートピー (SP)

設定値 off(表示 : oF) / on (初期値 oF)

[PTT]キーを押すと「ピピッ」音が鳴ります。鳴り終わってから話すことで、通話の頭切れを防げます。「ピピッ」音は相手には聞こえません。

7 : エンドピー (EP)

設定値 off(表示 : oF) / on / PP (初期値 oF)

on は送信が終わったことをビープ音の「ピッ」で受信側にお知らせします。送信側で設定してください。「ピッ」は送信側でも鳴ります。PP は受信終了時に信号レベルに合わせて3段階のビープ音「ピッ(強)」「ピピッ(中)」「ピピピッ(弱)」が鳴ります。受信側で設定してください。音は受信側でのみ聞こえます。両機能を同時に設定することはできません。

※PP は弊社の別機種ではエンドピピ機能と呼ばれています。

8 : ベル (bL)

設定値 off(表示 : oF) / on (初期値 oF) *on 時 : [🔔]アイコン点灯

受信をベル音とアイコンの点滅でお知らせします。通話中や連続で受信しているときは鳴りません。受信が途切れてしばらく経つと動作を再開します。

注意

- グループトーク設定時は、グループ番号が合わない信号を受信しても動作しません。

9：ランプ(バックライト) (LP)

設定値 off(表示：oF) / 5 / on (初期値 5 秒)

ディスプレイのバックライト動作を設定します。初期値では約5秒間無操作で消灯します。onに設定すると常時点灯しますが電池の消耗が非常に早くなります。



参考

本体音量レベル設定 Hi で本体スピーカー出力中、または外部音量レベル設定 Hi で外部オプション出力中は、バックライトが一時的に消灯します。

10：PTT ホールド (PH)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 oF)

[PTT]キーを一度押しと指を離しても送信を保持、もう一度押しと待受けに戻ります。[PTT]キーを押し続ける必要が無いハンズフリーができます。仕様上、スピーカーマイク (例：EMS-59)のように末尾にAが付かないマイクでは動作しません。

11：PTT オン/オフ (Pt)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 on)

オフにすると送信を禁止して受信専用になります。VOX送信もできません。PTT操作すると「Pt oF」と表示され、アラームが鳴ります。スタッフが多い現場で「通話に加わらせたくないが、内容は共有したいスタッフが居る」などに使います。このような受信端末を「受令機」と呼びます。

12：中継自動接続手順 (At)

設定値 off(表示：oF) / on1(表示：1) / on2(表示：2) (初期値 2)

中継アクセス時の自動接続手順を変更、解除する機能です。通常は on2 で使用してください。他社製品の中継器にアクセスする場合、設定値を変更 (oF/on1) すると相性問題による通信不良が改善できる場合がありますが、効果を保証するものではありません。

13：イヤホン断線検知 (Er)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 on)

24 ページで説明済のイヤホンケーブルの断線検知機能です。外部機器への接続など特殊な用途で検知機能が障害になるときだけオフにします。通常は on のままお使いください。

14：コールバック (Cb)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 oF)

送信中にイヤホンから自分の送信音声聞こえてくる機能です。正しく送信できているか確認しながら通話できます。コールバックの音量は本機の音量つまみで調整できます。

注意

●スピーカーマイクではハウリングが発生するため、本機能はオフのまま、使わないでください。

15：送信出力 (Po)

設定値 Lo/Hi (初期値 Hi)

送信出力を変更することができます。Lo にすると送信インジケータの表示が2個になります。本機では、Lo にしても3分の送信制限は作動します。

Lo：1mW 出力 他人に傍受されにくく、電子機器や補聴器など医療器具への影響が最小になりますが、通話距離は Hi 時の半分以下になります。

Hi：10mW 出力 標準設定です。通常は変える必要はありません。



参考

Lo の設定では中継チャンネルの b チャンネルにすると 3 分の送信制限なく連続通話することができます。

16：緊急通報 (EmG)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 oF)

on 時、[GROUP(SET/E)]キーを約 2 秒間押し続けるとディスプレイに「EmG-on」と表示され、本機スピーカーからアラームが鳴り、同じチャンネル（グループ）に警告音を送信します。本機能はキーロック中でも動作します。通報を停止したい場合は[PTT]キーを 1 回押ししてください。操作音量の設定がオフのときは緊急通報音が鳴らず、マイクが拾う周囲の音を送信します。

注意

●本機能は本体内蔵のスピーカーからアラームが鳴ります。イヤホンマイク側からアラームは鳴りません。

17：接客モード (rmt)

設定値 off(表示：oF) / Hd / tH / vo (初期値 oF)

小売、サービス、飲食業など、お客様に接しながらの通話が多いとき、簡単にイヤホンから聞こえる音声を一時消音でき(ミュート)、一定時間が経てば自動で復帰する便利な機能です。アルインコの別売イヤホンマイク使用時のみ有効になります。ミュート開始時は「ピピッ」、終了時には「ププッ」とビープ音が鳴ります。ミュート解除後はもとの音量に戻ります。

Hd (ハンド) : マイク[PTT]キーを短く押すとミュートします。もう一度押すと解除できます。
 tH (タッチ) : マイクを軽くたたくとミュートします。もう一度マイクを軽くたたくと解除できます。
 vo (ボイス) : マイクに声が入るとミュートします。声が入っている間はミュートを保持し、声がなくなると解除されます。ボイスは騒音の大きい場所では誤動作するので使えません。

注意

- タッチとボイスではバッテリーセーブが動作しないため、電池持ち時間が40%ほどになります。
- 本体マイクや咽喉マイク、他社製オプションには対応しません。
またスピーカーマイクではタッチとボイスは動作しません。
- 接客モードはVOX、PTTホールド、デュアルオペレーション中は正常に動作しません。
- どのモードでお使いでも、何らかのキーを押すとミュートは解除されます。
- ハンドとタッチではミュート解除忘れを防ぐため、一定時間が経つと自動的にミュートが解除されます。セットモード「受信音ミュートディレイタイム(rmd)」(36ページ)でミュート時間を変更できます。
- ハンド設定時は送信開始までに遅延が起こるため、音声の始めが途切れる場合があります。
「了解です、～」や「はい、～」など、途切れても支障がないような言葉から話し始めると通話しやすくなります。

18：本体音量レベル変更 (ivL)

設定値 Lo/Hi (初期値 Hi)

Lo に設定すると本体スピーカー出力の音量を小さくなり、電池持ち時間を長くすることができます。同じつまみ位置の音量でも、本設定を変更することで、音量と音質が変化します。設定を切り替えて、試してからお使いください。

注意

- Hi 設定時は音量を上げると音声出力がかなり大きくなり、受信音声が歪んで聞こえることがあります。また大音量で受信し続けていると難聴の原因となります。「大音量 難聴」で検索すると医学会他の HP で詳しく知ることができます。
- Hi 設定時は、バックライト点灯中に音声が出力される際は消灯します。音声出力が終了すると、バックライトが再び点灯します。

19：スケルチレベル* (Sq)

設定値 0～5 (初期値 3)

F Mラジオで放送以外のところを受信するとザーというノイズが聞こえます。あのノイズを消すのがスケルチです。通常は初期値3を変える必要はありません。ノイズの影響などでスケルチが切れる「カサ、カサ」音が聞こえるときはレベルを上げると改善することがありますが、弱い信号もとぎれとぎれに聞こえるようになります。



参考

設定値 0 ではSメーターが表示し、スケルチが開放されて「ザー音」が聞こえます。グループトーク設定時は「ザー音」が聞こえませんが、スケルチレベルは適正にしておかないと正しくグループトーク通信できなくなります。

20：キーロック時間* (Lt)

設定値 1～3 秒 (初期値 2 秒)

指定のキーを長押しするとキーロックがかかりますが、長押しする時間を 1～3 秒の間で変更できます。



参考

キーロックは[FUNC]キー長押しの簡易と、[FUNC]キーと[GROUP(SET/E)]キーを長押しする通常の2種類があります。詳しくは 19 ページに記載しています。

21：バッテリーセーブ* (bS)

設定値 off(表示：oF)/on (初期値 on) *oF 時：[.]アイコン点灯 表示例 L0.1

on 設定時に待受けが5秒以上続くと、電源を内部で自動的に短いスパンでオン/オフさせて電池の消費を抑えます。(ランプが消灯します)

バッテリーセーブをonに設定していても、本書に記載のように、特定の機能を使用中は自動的に停止します。

22：電池電圧参照* (O.OO)

現在の電池(バッテリー)の電圧を表示します。テスターのような精度は無く、個体によっても多少ばらつきます。電源が切れる直前の値を覚えておいて、電池の残量チェッカーとしてお使いください。

23：マイクゲイン* (mG)

設定値 1～7 (初期値 4)

通常は 4 のままお使いください。

相手に聞こえる声が小さいときは数値を大きく、相手に聞こえる声大きいときは数値を小さく調整します。

外付けの別売マイクにも有効です。

※EME-21/29A など業務仕様イヤホンマイクの右側面にある「L・M・H」スイッチもマイク感度調整です。

この調整の前に声が小さいときはH、逆はLをお試しください。調整できないときはMに戻してから本項の操作をお試しください。

24：デュアルオペレーション再動作時間* (dt)

設定値 1～5 (初期値 5 秒)

デュアルオペレーション時、受信終了後に動作再開するまでの時間を設定します。

31：VOX ディレイ時間* (tvo)

設定値 01～30（初期値 10：1.0 秒）

VOX で送信中に息継ぎなどで声が途切れても送信状態を保持する時間を設定できます。

32：チャンネル表示* (CH)

設定値 AL / no / off(表示：oF)（初期値 AL）

ALに設定すると、本機のチャンネルは L01～L09、b01～b11、L10～L18、b12～b29と表示されます。no に変更すると他社製の01～20、中継01～27表示に変ります。oFにすると表示が「—」（チャンネル非表示）となり、設定内容を隠せます。

oFに設定するとチャンネルやグループが変更できなくなります。あらかじめチャンネル・グループを設定してから本項目をoFにしてください。解除するときは同じ操作でoF以外に設定しなおすか、簡易リセットします。

33：トーンマージン* (to)

設定値 1～5（初期値 2）

グループトーク機能の信号の読み取り精度を調整できます。弊社製の旧型機や他社製品とグループトークできないときに値を大きくすると改善することがありますが、違う番号の音声が聞こえるなど、逆の不具合の原因にもなります。通常は2のままお使いください。この設定をする前に相性問題が起きにくい02～36の間で動作するグループ番号を探すことをおすすめします。

34：テールノイズキャンセル設定* (tC)

設定値 off(表示：oF) / on（初期値 on）

相手の送信が終わったときに聞こえる、耳障りな「ザッ」音を除去する機能です。アルインコのTC機能に対応する製品間では自動的に有効になり、対応しない機種が混じるときもオフにする必要はありません。無線通信独特の「ザッ」音を好むユーザーもおられるためオフにできます。

35：外部音量変更* (EvL)

設定値 Lo / Hi（初期値 Lo）

オプションのイヤホンを鳴らす音量を大きくできます。Loは標準、Hiはとても大きな音になります。

重要

本機の音声は大音量(定格出力1W)のため、Hi設定に適合するマイクに制限があります。

●適合するイヤホンとイヤホンマイク（2026年6月現在）：

EME-21A / EME-21AB / EME-29A / EME-39A / EME-50 / EME-57A / EME-652MA

●適合しないマイクとイヤホン / Loのままお使いください。

※Hi設定で故障しても製品保証の対象外です。

スピーカーマイクEMS-59 (耐入力定格500mW)

ヘッドセット EME-46A (同300mW)

ヘルメット用ヘッドセット EME-53A(同300mW)

イヤホン EME-6 / EME-26

注意

●イヤホン使用時ではあらかじめボリュームを下げおき、少しずつ音量を上げて適切な音になるよう調整してください。また、設定にかかわらず、イヤホン類を大音量で長時間使っていると聴力障害の原因になりますので十分ご注意ください。「イヤホン難聴」で検索すると耳鼻咽喉科ドクターや政府広報のHPがヒットします。

36：受信音ミュートレベル* (rmS) [接客モード]

設定値 1～7 (初期値 4)

接客モードのタッチ、またはボイスを使用時のマイク感度レベルを変更できます。
ミュートが利きにくい場合は設定値を大きく、利きやすい誤動作するときは設定値を小さくします。

37：受信音ミュートドレイタイム* (rmd) [接客モード]

設定値 1 (5 秒) / 2 (10 秒) / 3 (15 秒) / 4 (30 秒) / 5 (60 秒) (初期値 3)

ミュートの保持時間を変更できます。ハンドとタッチではミュートの解除忘れを防ぐための時間設定です。設定時間になると自動的に解除されます。ミュート状態の保持時間を延ばすときは、設定時間を長くします。ボイスでは息継ぎしても解除しないようにするための時間設定です。ミュートの切り替えを素早くしたいときは短めに設定すると使い勝手が向上しますが、息継ぎでも解除されることがあります。

38：減電池スリープ* (Sbt)

設定値 off(表示：oF) / on (初期値 on)

電池の電圧が一定レベルまで下がると自動的に電源を切り、過放電を防ぐ機能です。バッテリー使用時に推奨しますが、使用時間は僅かに短くなります。



注意 この機能が働くとディスプレイが消灯しますが、電源スイッチは切れていません。本機をそのまま保管するときは電源/音量つまみを反時計方向に回し切ってオフにし、電池は必ず外してください。

39：モニター機能* (my)

設定値 off(表示：oF) / on / Hd (初期値 oF)

24ページで説明したモニター機能の設定です。
待受けで[▼]キーと[▲]キーを同時に押したときの動作設定です。

on(モニター) : キーを同時に押している間だけスケルチを開放して「ザー」音が聞こえます。受信状態のチェックなどに使用する管理者向けの機能です。

Hd(モニターホールド) : キーを一度同時押しするとスケルチを開放し、もう一度押すと元に戻ります。

※音量を下げたおかないと、大きなノイズが聞こえるのでご注意ください。

24. 故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電池の入れ方が間違っている	電池を正しく取り付けてください
	電池が消耗している	新しい電池に交換するかバッテリーを充電してください
音が出ない	音量が低すぎる	適切な音量に調整してください
受信できない	相手とチャンネルが違う	CH/グループ番号を合わせてください
	相手と距離が離れ過ぎている	相手に近づいて通話してください
送信できない	電波を受信している	信号がなくなってから送信してください
	3分通信制限を超過している	[PTT]キーを離して2秒経過後に送信してください
	PTT機能がオフになっている	セットモード項目11をonにします
充電できない	端子が汚れている	バッテリーと充電スタンドの端子類を清潔な綿棒で清掃してください。
	バッテリーが劣化している	新しいバッテリーに交換してください
	単三電池を入れている	バッテリーをお使いください。
電源を入れると、「Er-nG」表示が出る、またはイヤホンから音が出ない	イヤホンがしっかり入っていない	奥まで差し込んでください。
	イヤホンが断線している	イヤホンを新品に交換する

■サービスセンターにご相談になる前に

特定小電力トランシーバーで相談の多いトラブルの解決方法をご紹介します。

①通話できない個体がある

- イヤホンやマイクを使っていたらまず外してください。
- 良好に動作する個体とディスプレイ表示を見比べてください。本書の 16 ページのイラストも参照ください。多いのは「-01」のような枝番号と「秘話」などのアイコン表示の有無です。
- 正常な個体に枝番号やアイコンが一切出ていないときは、悪いほうの電源を切り、[FUNC]（カギのイラストの）キーを押したまま電源を入れ、全点灯したら指を離します。
- 正常な個体に枝番号が出ているときは、悪いほうに 19 ページのグループトーク操作をして、同じ枝番号を表示させます。
見た目が同じになったら[▲]または[▼]キーでチャンネル番号を合わせて本体左横の[PTT]キーを押して通信テストをします。直っていたら[FUNC]キーを長押ししてキーロックしておく、押し間違いなどで起きる誤操作を防止できます。

②音が聞こえない、相手に声が届かない

- 上記①でも回復しないときはイヤホンやイヤホンマイクを疑います。電源を入れた時に「Er-nG」表示が出たら、正しく動いているイヤホン（マイク）に挿し変えてみてください。
直ったら、悪いほうの個体のイヤホンの故障です。業務用イヤホンマイクはイヤホン部だけを交換できます。一般用はマイクごとお買換えになります。「Er-nG」表示は 24 ページで詳しく説明しています。
- 別売マイクを使っていないときは、[▼]キー、[FUNC]キー、[GROUP(SET/E)]キーを同時に押しながら電源を入れる工場出荷リセットをしてから、正常な個体をマスター機にして 21 ページのエアクローンをしてください。

③他社製の、CH 表示が違うトランシーバーと通信したい

- 他社製のトランシーバーを借りて、20 ページの ACSH 操作をしてください。他社製がマスター機です。

④充電できない

- 使用中にバッテリーが切れて、非常用の単三型乾電池に入れ替えたままになっていることが意外に多いものです。シフトで別のスタッフと無線機を共用するときなどに起こりがちです。

いずれも回復しなければ、販売店やサービスセンターにご相談ください。サービスセンターのお問い合わせ窓口は本書の最後のページに記載しています。

25. オプション一覧

EBP-70	Li-ion バッテリーパック(1000mAh)
EDC-158A	ツイン充電器セット
EDC-158R	充電器スタンド
EDC-184A	シングル充電器セット
EDC-162	連結充電用 AC アダプター
EDC-139	AC アダプター
ESC-61	ソフトケース

P.35 の外部音量設定 Hi (イヤホンを大音量で鳴らす) に対応するイヤホン/イヤホンマイク

EME-50	ストレートコードイヤホン(耳かけ型)
■EME-21A	イヤホンマイク(カナル型 グレー)
■EME-21AB	イヤホンマイク(カナル型 ブラック)
■EME-29A	イヤホンマイク(耳かけ型)
■EME-57A	イヤホンマイク(カナル型耳かけ)
EME-522A	イヤホンマイク(オープンエア型)
EME-652CA	イヤホンマイク(カナル型)
EME-652MA	イヤホンマイク(耳かけ型)
EME-762MA	イヤホンマイク(オープンエア型)
EME-762PA	イヤホンマイク(オープンエア型)

外部音量設定 Hi に対応しないイヤホンとオプションマイク

EME-6	ストレートコードイヤホン(オープンエア型)
EME-26	カールコードイヤホン(オープンエア型)
■EME-39A	咽喉イヤホンマイク
■EME-46A	ヘッドセット
■EME-53A(※1)	ヘルメット用ヘッドセット
EMS-59(※2)	スピーカーマイク

(※1) バイク用ヘルメットには使用できません。

(※2) スピーカーマイクは、PTT ホールド、VOX 機能が使用できません。

* ■は壊れにくく、故障しても修理ができる業務用です。

* ベルトクリップ、マイクやイヤホンのスポンジ・イヤピースなどの消耗品はスペア部品をご用意しています。販売店にご相談ください。アルインコ・インカムショップもご利用ください。

<https://alincocom.com/>

* マイク類の接続方法はアクセサリ側に記載されています。

26. 生産終了品に対する保守期限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。

不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

27. 定格

送受信周波数	Lチャンネル	422.2000~422.3000MHz(交互) 421.8125~421.9125MHz(中継受信) 440.2625~440.3625MHz(中継送信)
	bチャンネル	422.0500~422.1750MHz(交互) 421.5750~421.7875MHz(中継受信) 440.0250~440.2375MHz(中継送信)
制御チャンネル	421.8000MHz(受信)、422.1875MHz、440.2500MHz(送信)	
電波形式	F3E (FM)、F1D (FSK)	
送信出力	10mW、1mW	
受信感度	-14dBu (12dB SINAD)	
音声出力	800mW以上(10%歪)、最大1W以上(本体スピーカー:4Ω、外部出力:8Ω)	
通信方式	単信、半複信	
電源電圧	DC3.7V(Li-ionバッテリーパック使用時)、DC4.5V(単三形乾電池3本使用時)	
消費電流	送信時:約75mA、待受時:約80mA、バッテリーセーブ時:約20mA	
動作温度範囲	-10℃~+50℃(充電:0℃~+40℃)	
寸法	54.8(W)mm×94(H)mm×29.2(D)mm(突起物除く)	
質量	約100g(本体のみ)	
使用時間の目安	単三形アルカリ乾電池使用時	:約60時間
	Li-ionバッテリーパック使用時	:約26時間

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物と字体や形状が異なったり、一部の表示を省略したりしている場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。

アルインコ株式会社 電子事業部

大阪本社 / 電子サービスセンター:

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 4-4-9 淀屋橋ダイビル 13F / TEL 06-7636-2222

無線・電源機器のアフターサービスに関する情報はアルインコ
電子事業部HP <https://alinco-denshi.com/>
「サポート情報」をご覧ください。



Radio Communication Solutions
株式会社 ジャパンエニックス
JAPAN ENIX CO.,LTD.

- 東京本社 03-5715-2351
- 関西支店 06-6583-7700
- 名古屋営業所 052-908-1440
- 九州営業所 092-432-9077
- 札幌営業所 011-733-6120
- 仙台営業所 022-290-9381



◀各住所は
こちらから

<https://www.jenix.co.jp/>

Copyright Alinco.Inc.

PW0048

FNFJ-NG